

新しい生活様式に対応した地域活動の事例

～自治会やまちづくり組織等、工夫して取り組まれている地域活動の事例を紹介します～

回覧板をデジタル化（昭和新町自治会）

自治会長の負担軽減や新型コロナウイルス感染予防を目的に、これまで回覧板に挟んで共有していた情報を、「LINE」を活用し電子回覧化。「LINE」の連絡網ができたことで、気軽に情報交換ができ、コミュニケーションも深まりました。

LINEを活用いた防災情報の発信（河合地区）

新型コロナウイルスの感染拡大による回覧板が使えなくなり、住民への情報伝達が滞ったため、災害時の情報伝達手段として「LINE」を活用。避難場所や開所時間、市の災害情報を迅速に伝えることが可能になった。

新しい生活様式での夏祭りの開催（越廼地区）

イベント開催に向けたガイドラインを地区独自に策定し、スタッフ、来場者ともに順守。マスクの着用、入口の制限、来場者の把握、検温の実施などに加え、飲食ブースを設置しないなど、工夫しながら夏祭りを開催。

会議をビデオでつなぎ2会場で同時開催（社北地区）

50人程度が集まる会議を開催するにあたり、収容できる会場が近隣に無かったことから、参加者を1階と2階の2会場に分け、各会場をビデオでつないで同時開催。密を避けながら会議を開催することに成功。

役員会議をオンライン化（県外某自治会）

ビデオ会議システム「Zoom(ズーム)」によるオンライン役員会を実施。事前に「Zoom」の使用方法を書いたマニュアルを役員に配布。資料についても、事前に電子メール等で送信するなど電子化を図っている。